

桜蔭俳話会

第一二〇回通信句会 選句結果

平成二十八年冬。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

- | | | | | |
|-----|------------------|-----|-------------------|-----|
| 1点 | 孫のごとき医師を待つ母二日かな | 友子 | 美しき冬の桜の枝細き | 則敏 |
| | 耳かきのみやげに受けし日向ぼこ | ツル子 | 1点 プランター溢るる色の雪もよい | 弘子 |
| | 回り道寒さやはらぐ園隣 | かおる | 5点 寒椿落つるや感ひふつ切れし | 秀一 |
| 2点① | 日脚伸ぶ馬手と弓手の紙袋 | 秀一 | 4点①城壁に弾痕まざと時雨くる | 安紀子 |
| | 山国の土産は緑蔭の藁 | 眞壽 | 1点①枯山水冬日に波紋揺れにけり | 幸枝 |
| 4点④ | ニユートリノ甚兵衛鮫の深ねむり | 才美 | 1点①冬木の芽丸み見るたび力得る | 直子 |
| 2点① | 恵方巻南々東向き請う元気 | 直子 | 3点 悴みて片言まじりの幼な来る | ツル子 |
| 7点 | ケープルに禰宜乗り合わせ初詣 | 幸 | 1点①D51の落着く広場風光る | 幸 |
| 3点 | 朝市の大根持ち替へ坂の町 | 弘子 | 高きにて遠目の富士の今朝の冬 | 則敏 |
| 4点① | 明け切らぬ運河のしじま梅早し | 守 | 旅支度整えて待つ花だより | 邦子 |
| 3点 | 豆撒きの豆を攫ひし帽子かな | 明美 | 首もたぐ畑の大根凍みてをり | ツル子 |
| | 初景や車窓に富士の雄々しかな | 幸枝 | 3点①初雪の深き青空くれしかな | 眞三 |
| 1点 | 春を待つ子待ちいびきのうたた寝湯 | 眞三 | 3点①聞こへしは幼き声の福は内 | 眞壽 |
| 1点 | 鶯の輪の切れ目に美しき冬の富士 | 則敏 | 3点①夜咄の笑ひ赤子を泣かせけり | 朋子 |
| 3点 | 和菓子屋に寄るも楽しみ初詣 | 幸子 | ババ抜きは少しむつかし水仙や | 直子 |
| 3点① | 手のひらにつんと尖りし冬芽かな | のり子 | 4点①安保理も制裁も無視遠き春 | 忠夫 |
| 2点 | 砂風呂の湯気の彼方や寒昂 | 安紀子 | 4点 木曾谷の風の溜まり場冬紅葉 | 守 |
| | 福寿草三輪咲きて日差し呼ぶ | 忠夫 | 3点①父の元へ寒紅うつすら母逝けり | 友子 |
| 2点 | われを育てし給食のくちら肉 | 朋子 | 1点 春隣風に季節を嗅き分くる | 幸枝 |
| 4点 | 根深掘る鯉の音清しあかね雲 | ヤエ子 | 2点 縮こまる日々寒梅にはげまされ | 幸子 |
| | 待望の慈雨に息つく冬野菜 | 邦子 | 2点 冬芽萌ゆ無理を承知の習ひごと | 才美 |
| 1点 | 散り落ちて姿乱さぬ寒椿 | 忠夫 | 4点 娘来ぬの一言母の初日記 | 安紀子 |
| | 妻ともにストーブあたりテレビの夜 | 眞三 | 3点 霜を置く青菜旨そう陽の光 | ヤエ子 |
| | 春近し黄色の日の沈む富士 | 幸 | 5点①寒の水飲み父おもふ母おもふ | 秀一 |
| | 冬木宿出羽三山の節の聞こえたり | かおる | 2点①冷え冷えと夜を真つ赤に桜島 | 明美 |
| | 満ち足りし汝幸せや寒鴉 | ヤエ子 | 2点①冬うらら花活くる人背筋伸ぶ | かおる |
| 1点① | 冬枯の野にひとすじの煙白し | 幸子 | 2点①獅子舞に頭かませてとくひ顔 | のり子 |
| 1点 | どんど焼ダイオキシンを問ふ電話 | 守 | 6点①下校時の子等の口笛春隣 | 弘子 |
| 3点 | 酔いどれてあちこち歩く春の風邪 | 眞壽 | | |
| 3点 | 福豆を咬むも苦勞の歳となり | 邦子 | | |
| 8点① | 注連飾るいつもの釘の少し錆ぶ | のり子 | | |
| 2点 | 晩年の不安かき立つ冬火花 | 明美 | | |
| | 雪明や何をするにも口笛に | 才美 | | |
| 1点 | 息の音の徐々に弱まる寒椿 | 友子 | | |
| 3点② | 鳥の名を当てずつぼうに冬木の芽 | 朋子 | | |

得点順

八点

- ① 注連飾るいつもの釘の少し錆ぶ 柏尾のり子

七点

- ケーブルに禰宜乗り合わせ初詣 稲葉 幸

六点

- ① 下校時の子等の口笛春隣 池田 弘子

五点

- ① 寒の水飲み父おもふ母おもふ
寒椿落つるや惑ひふつ切れし 佐渡谷秀一
佐渡谷秀一

四点

- ④ ニュートリノ甚兵衛鮫の深ねむり 恩田 才美
① 明け切らぬ運河のしじま梅早し 増田 守
① 城壁に弾痕まざと時雨くる 藤崎安紀子
① 安保理も制裁も無視遠き春 安中 忠夫
根深掘る鋏の音清しあかね雲 岩野ヤエ子
木曾谷の風の溜まり場冬紅葉 増田 守
娘来ぬの一言母の初日記 藤崎安紀子

三点

- ② 鳥の名を当てずつぼうに冬木の芽 中村 朋子
① 手のひらにつんと尖りし冬芽かな 柏尾のり子
① 初雪の深き青空くれしかな 岩崎 眞三
① 聞こへしは幼き声の福は内 京林 眞壽
① 夜咄の笑ひ赤子を泣かせけり 中村 朋子
① 父の元へ寒紅うつすら母逝けり 藤本 友子
朝市の大根持ち替へ坂の町 池田 弘子
豆撒きの豆を攫ひし帽子かな 古野 明美
和菓子屋に寄るも楽しみ初詣 辻 幸子
酔いどれてあちこち歩く春の風邪 京林 眞壽
福豆を咬むも苦勞の歳となり 平野 邦子
悴みて片言まじりの幼な来る 荒木ツル子
霜を置く青菜旨そう陽の光 岩野ヤエ子

(以下省略)